

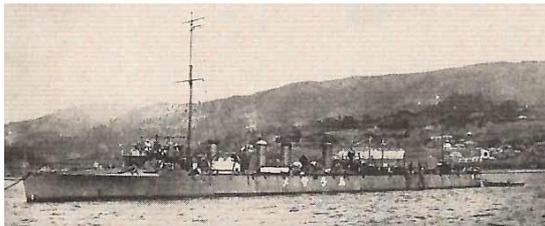
甲状腺外科草子 11

「鬼貫」蘇生ス：鈴木貫太郎提督

杉野 圭三

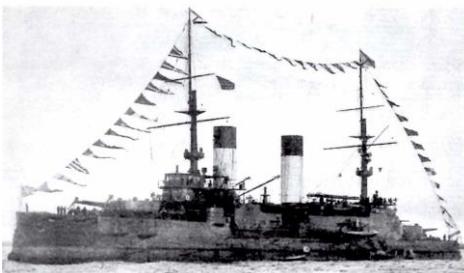
終戦時の第 42 代首相 鈴木貫太郎 (1868-1948) は海軍兵学校 14 期卒で日清・日露戦争を通じ駆逐艦艦長・司令を務め、その猛訓練と勇猛果敢な戦闘指揮から「鬼貫 (鬼の貫太郎)」と呼ばれていた。しかし、幼少期は「泣き貫」とよばれるほどの泣き虫であったと伝わる。小さい頃から、暴れ馬に蹴られそうになったり、溺れそうになっても不思議と助かる運勢の良さを持っていた。

海軍時代にも数多くの危機に会いながら、その都度乗り越え、日本海海戦では第 4 駆逐隊司令として、「朝霧」に座上し「村雨」、「朝潮」、「白雲」を率いた。



春雨型三等駆逐艦「村雨」、375 トン、31 ノット

この戦いでは戦艦「スワロフ」、「ナヴァリン」、「シソイ・ヴェリキー」への雷撃を成功させる大戦果を挙げている。



戦艦スワロフ (14,415 トン)

自伝によると、5 時 5 分ごろ命令を受け、600m まで近づき「村雨」の水雷が命中し「スワロフ」が傾くのを確認した。



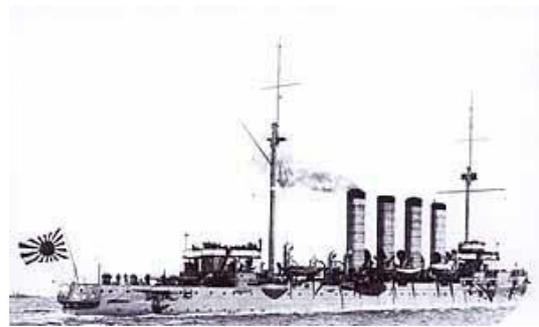
左：戦艦ナヴァリン (10,206 トン)



右：戦艦シソイ・ヴェリキー (10,400 トン)

夜戦となり午前 2 時半、戦艦「ナヴァリン」に「朝霧」が 600m、「白雲」が 300m から水雷を命中させ 5 分間で沈没させている。「シソイ・ヴェリキー」にも命中させたが沈没しなかった。

日露戦争後、鹵獲されたロシア巡洋艦「ヴァリャーグ」は日本海軍に編入され、練習艦「宗谷」として就役し、貫太郎が艦長に任命された。



「宗谷」(元ロシア海軍ヴァリャーグ,6604 トン)

貫太郎が練習艦隊遠洋航海で士官室に貼った「奉公十則」の一部を記す。常に徳を修め智を磨き、日常の事を学問と心得よ。

公正無私を旨とし、名利の心を脱却すべし
共同和諧を旨とし、常に愛敬の念を存すべし。
法令を明知し、誠実に之を守るべし。

自己の職分は厳に之を守り、他人の職分は之を尊重すべし。

自己の力を知れ、驕慢なるべからず。

易き事は人に譲り、難き事は自ら之に当たるべし。

